

I. 2025年度事業計画案

1. 事業計画概要

当協会では、建設工事の基礎材料である鋼管杭・鋼管矢板・鋼矢板に関して、材料や製品、設計や施工についての豊富な経験や知識を有しており、これらを社会にフィードバックするとともに、技術の進化や標準化を図り、普及活動を行うことによって、経済的で安心・安全な社会資本形成に資する活動を推進している。

2025年度は、一昨年度より開始した協会のタスクフォース型新体制による活動を更に深め、確実に成果を発揮することを目指していく。

また、施工に特化した組織体として、施工委員会を一昨年度立ち上げたが、本年度は、施工技術の進化や、ICT技術・BIM/CIM技術・ロボット技術等の導入による施工管理の強化対応、施工要領の基準化・標準化などに向けた「活動テーマの絞込みと具体化」を図ることを目指す。

この施工管理の強化とICT技術・BIM/CIM技術・ロボット技術等への対応は、施工品質の向上による社会資本の長寿命化に繋がり、建設業界の労働力不足にも対応していく重要な検討課題であると考ええる。

設計法の標準化・基準化においては、道路橋示方書の改訂、港湾基準改訂に向けた技術検討を、鋼管杭の粘り強い強度・変形特性が盛り込まれるよう留意しながら継続的・且つタイムリーに進めていく。

鋼矢板では、協会が河川堤防の強化工法として提案している「鋼矢板二重壁構造」について、国土交通省から提供いただいた「実大規模の試験施工の場」に適用・調査することで、河川の計画高水位以下での外力や腐食環境の変化に対し、長期に渡り設備の健全性が確保できるよう、点検・維持管理手法の構築を目指していく。

鋼管杭の施工資格の普及と施工管理の向上を意図して実施している資格試験制度においては、一昨年度から開始した他杭種部門との連携統合の議論が纏まり、国土交通省認定制度として認可された新「基礎施工士」の2026年度資格制度開始に向け、試験実施サポート体制を整備していくこととしている。

2. 理事会、社員総会の開催・運営

- | | |
|---------------|------------|
| (1) 理事会 | 3～4回程度 |
| (2) 社員総会 | 1回（定時社員総会） |
| (3) 技術総括委員会 | 毎月1回以上 |
| (4) 拡大技術総括委員会 | 隔月1回程度 |
| (5) 資格運営協議会 | 毎月1回程度 |

3. 広報・普及活動

3-1 文書の発行および広報活動

- | | |
|----------------|-------|
| (1) 機関誌「明日を築く」 | 93号発刊 |
|----------------|-------|

3-2 論文投稿

- | |
|------------|
| (1) 土木学会 |
| (2) 日本建築学会 |

3-3 協会ホームページ改定

- | |
|----------------------------------|
| (1) 技術資料等のDL環境の更なる充実化、公開内容の更新の推進 |
|----------------------------------|

4. 委員会活動計画

以下の研究および技術活動を予定している。

委員会名	活動項目	目的・実施事項・成果見込み
施工委員会	1. 施工管理要領の整備、更新 (前年度からの継続テーマ) 2. JASPP 版資料の整備、更新 (前年度からの継続テーマ) 3. 各種公的規準への織込み (前年度からの継続テーマ) 4. 施工資格制度検討 (前年度からの継続テーマ) 5. 横断的な個別テーマの探索 (新規テーマ)	1. JASPP版施工管理要領のフォロー、メンテナンス 修正加筆、各社施工計画書への反映浸透 2. 鋼管杭-その設計と施工-(赤本)施工編の見直し方針策定、資料作成、公開 3. 道示・鉄道標準・港湾基準等における施工面での他技術委員会との連携、素案作成 4. 更新講習の支援(テキスト改訂)とJASPP、日基協、COPITAの3協会の資格統合に向けた準備・検討・調整(施工社からの意見集約を踏まえた実施) 5. 横断的な個別テーマの探索(新規テーマ) 5.1 (仮称) JASPP-DXに向けた新技術(ICT・BIM/CIM・IoT等)に対する基本方針等の検討 5.2 高難度条件下の施工における出来形精度等の施工に関する調査、検討
鋼管杭技術委員会 (土木基礎小委員会)	道示改定対応 1. 次期道示改定対応 2. 次々期道示改定対応	1. 道示改定対応 ①目的 道路協会の道示改定WG状況をフォローし、鋼管杭に関してH29道示レベルの内容を維持。 ②実施事項 ・ 条文、解説文の改定に関する審議フォロー。 ・ 設計施工便覧の改定に関する審議フォロー。 2. 次々期道示改定対応 ①目的 鋼管杭基礎の限界状態1～3を再定義し、鋼管杭基礎の降伏後挙動を十分に生かす合理的な設計が採用しやすい環境を整備。 ②実施事項 ・ 塑性設計による合理化効果評価。 ・ 基礎降伏後挙動(杭、地盤)に関する実験再現解析モデルの構築。 ・ 限界状態1～3定義案のバックデータ整理。

鋼管杭技術委員会 (鋼管矢板基礎小委員会)	1. 道示改訂、新鉄道標準対応 2. 脚付き鋼管矢板基礎の設計方法の確立 3. 施工性改善	1. 道示、新鉄道標準改訂対応 ①目的 - 鋼管矢板基礎に関してH29道示、H24鉄道標準レベルの内容を維持。 ②実施事項 - 条文、解説文の改定に関する審議フォロー。 2. 脚付き鋼管矢板基礎の設計方法 ①塑性化を考慮しない（降伏しない）範囲における設計方法の確立。 ②塑性を考慮（降伏以降を考慮）した設計方法確立に伴う技術課題の議論・整理。 3. 施工性改善 ①継手処理改善策の道示施工編記載を打診。 ②施工編技術資料（施工管理、Q&Aなど）整理。
鋼管杭技術委員会 (建築基礎小委員会)	建築2次設計法の整備 1. 杭頭接合部，杭体（主にずれ止めのないコンクリート充填部）の耐力と変形性能 2. 群杭の水平抵抗（群杭係数算定法の構築）	1. 杭頭接合部，杭体（主にずれ止めのないコンクリート充填部）の耐力と変形性能 ①目的 「基礎部材の強度と変形性能（日本建築学会）」の改定に向けた技術課題の検討 →改定版への反映 ②実施事項 【杭頭接合部】 東北大・大阪公立大との共同研究にてφ500鋼管での実大実験、当該実験結果による耐力算定法の妥当性検証と変形能算定法の構築 【杭体】 耐力と変形能の算定式の構築と見直し、 - ずれ止めのないコンクリート充填部 - 中空部（中空鋼管） ③成果見込み 合理的な耐力と変形能算定法の提案 (日本建築学会 基礎部材の強度と変形性能小委員会へ) 2. 群杭の水平抵抗（群杭係数算定法の構築） ①目的 鋼管杭が使用される環境を作り出す為の設計方法の標準化とツールの実用化 →次期「建築基礎構造設計指針（日本建築学会）」への反映

		②実施事項 日本建築学会への論文投稿（構造系論文集または技術報告集） ③成果 鋼管杭基礎の設計実務に適用できる群杭係数算定法（等価杭間隔法×等価杭径法）の典拠化
鋼管杭技術委員会 （港湾・防食小委員会）	1. 重防食塗装の長期耐久性評価手法の実施	① 目的：重防食塗装の耐久性の実証 ② 実施項目 ・39～40年目詳細観測結果のとりまとめ（共研対応） ・40年目の成果の港空研資料化（分担執筆） ・41年目の観測（目視のみ）
鋼矢板技術委員会 （河川堤防小委員会）	1. 国交省「河川堤防の強化に関する技術検討会」に係る技術公募への対応 2. 鋼矢板技術委員会共通事項	1. 国交省「河川堤防の強化に関する技術検討会」に係る技術公募への対応 ① 目的： ・越水に対して粘り強い河川堤防強化技術としての鋼矢板二重壁工法の公的オーソライズ化 ② 実施事項： ・北海道千歳川遊水地での試験施工実施（上期）鋼矢板打設、初期計測（下期）2次計測[冬季養生期間] ・鉄連学助成研究推進（2025～2027FY） ③ 成果（予定）： ・試験施工 鋼矢板二重壁設置完了(上期) ・初期・2次計測完了(下期) 2. 鋼矢板技術普及・定着に向けた技術基盤整備 ・建設コンサルタント協会技術講習会対応
製品技術委員会	1. 2024年度活動報告まとめ 2. 規格・技術資料の改訂推進 3. 新規課題への対応	1. 昨年度の活動報告書の取りまとめ。 2. 「鋼管杭・鋼管矢板標準製作仕様書」の改訂 2024年版JISの対応した「鋼管杭・鋼管矢板標準製作仕様書」（第8版）の発行 3. 新規課題への対応 新規に発生した課題への対応を検討。
広報委員会	1. 「明日を築く」発刊	1. 「明日を築く第93号」発刊 ・紙面構成、寄稿・取材 PJ等の候補案の策定 ・執筆依頼、原稿案の作成、印刷、製本、郵送等の取りまとめ（2025年度末発刊予定）

	2. ホームページ定期更新	2. ホームページの定期更新 ・協会からのお知らせや技術資料等のアップロードなど、公開内容の更新の推進 ・必要に応じた追加コンテンツの新規作成、資料充実化等の推進
赤本改訂編集WG	1. 「鋼管杭―その設計と施工―」の改訂	1. 「鋼管杭―その設計と施工―」の改訂 ・技術記載事項の転載許可（特にWEB公開の場合）が厳しくなった状況下、記載項目の選定と独自資料の作成・相手方調整を実施する ・場合により、WEB公開か冊子公開かの判断実施 ・上記により、年度内の全章改訂を目指す。
資格委員会	1. 鋼管杭資格運営協議会 2. 鋼管杭施工管理士検定試験委員会 3. 「基礎施工士」への統合活動	1. 鋼管杭資格運営協議会 ・活動内容を確定し、「鋼管杭施工管理技術者講習会」の26FY開始の準備開始。 ・活動内容に見合った協議会名称の変更 2. 鋼管杭施工管理士検定試験委員会 ・25FYで解散。それに伴う手続きを実施。 3. 「基礎施工士」への統合活動 ・JASPP委員：委員長（代表理事）、委員4名（技術総括委員3名+事務局員1名） ・JASPP、日基協、COPITAの3協会にて、資格統合協議会を開催し、鋼管杭施工管理士と基礎施工士との統合に当たっての課題解決案作成2025年度内を目指す。

5. その他の活動

5-1 2025年度鋼管杭施工管理資格関連の活動計画案

鋼管杭施工管理士検定試験、関連事業への参画・支援を継続

① 鋼管杭施工管理士検定試験委員会への参画

- ・JASPP委員：委員長（代表理事）、委員4名（技術総括委員3名+事務局員1名）
- ・2025年度「鋼管杭施工管理士資格更新」の実施

5-2 出版事業

施工者向け参考図書「鋼管杭―施工と施工管理―」の販売